

▼岩手県盛岡市

「私たちの復興会議～つながる、ひろがる、変える!～」開催

●ゲイジャパンニュース共同代表 東日本大震災女性支援ネットワーク世話人 山下梓

1月15日、岩手県盛岡市で「私たちの復興会議～つながる、ひろがる、変える!～」(もりおか女性センター主催)が開催された。

第1部では、奥山恵美子仙台市長が、「震災と女性たち」と題して講演。仙台市の被災状況や仙台市宮城野区での「岩切の女性たちによる防災宣言」(2010年6月)の取組などを紹介。「震災後初めのうちは男性が中心となり避難所が運営されたが、時間が経つにつれ多様なニーズが出てくるようになり、リーダーシップだけの運営は敬遠されるようになった。避難所でも復興過程でも生活者としての女性の視点が大切」と話された。

第2部は、「3.11からのスタート～つながる、ひろがる、変える～」をテーマとしたシンポジウムで、全国の大学生ボランティアを受け入れる、いわてGINGA-NETの八重樫綾子さん(岩手県立大学生)が、震災前からの災害ボランティアセンター設置・運営のトレーニングや、がれき撤去や仮設住宅でのお茶飲みサロン運営などのボランティアの経験について報告された。

続いて、岩手レインボー・ネットワークを主宰する私から、障害者、高齢者、LGBTなど“マイノリティ”の災害時の経験について報告。LGBT

は、普段からセクシュアリティを明らかにできない状況が災害時にも現れ、「自分がレズビアンだって忘れてた」、「普段からゲイであることも同性のパートナーがいることも地元では言っていない。だから、震災があるからといって、特にゲイとして困ることはない」などの声があったことを紹介しました。

石井布紀子さん(NPO 法人さくらネット)からは、東日本大震災での経験から、設置は原則7日間と定めた災害救助法の「避難所」の定義の見直しの必要性や、「不合理なわがままはよくないが、避難生活の中で『快適』を求めることはぜいいたくではないはず」との指摘がありました。



岩手日報 2012.1.17

▼宮城県南三陸町

自分と向き合って～フォトワークショップに参加して

●阿部文恵

東日本大震災で勤めていた会社は壊滅的被害を受け、3月から休業を強いられています。転職が再開できるかと悩んでいるときに誘われたのが、フォトワークショップでした。震災の様子、現在の心境など、写真を通じながら参加した人たちと口中しています。

体育館の布団1枚が自分の居場所。仕切りのない共同生活。自分の言葉や人に対し過敏になり、心にかかる負担があまりにも大きくなりすぎて、肉体的疲労より、精神的苦痛で逃げ出したくなった時もありました。

避難所での生活は6カ月に及びました。今は仮設住宅に入ることができ、家族で生活できることに安らぎを感じています。

自分の進む道に結論は出ていないけれど、険しいデ



コボコだらけの道であっても、私は前を向いて、ゆっくりと一歩一歩歩いて行こうと思っています。人生の折り返し地点の今が、チャンスなのかもしれないから。

連絡先

東日本大震災女性支援ネットワーク

住所：東京都文京区向丘 1-7-8

TEL/FAX：03-3830-5285

E-mail：office@risetogetherjp.org

Web：http://www.risetogetherjp.org

twitter：@risetogetherjp

●メールマガジンをご希望の方は事務所までメールかお電話でお申し込み下さい。



東日本大震災女性支援ネットワーク

Rise Together :
Women's Network for East Japan Disaster

http://www.risetogetherjp.org

Oxfam 協力：国際協力 NGO オックスファム
URL：www.oxfam.jp

かだりば通信 2012.2

発行：東日本大震災女性支援ネットワーク／編集人：岡本美架
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-7-8 TEL：03-3830-5285 E-mail：office@risetogetherjp.org twitter：@risetogetherjp

▼東京都

東日本大震災女性支援ネットワーク 中間報告会 「復興・災害とジェンダー・見えてきた女性支援の課題」報告

東日本大震災女性支援ネットワークの中間報告会「復興・災害とジェンダー・見えてきた女性支援の課題」が1月29日、東京・文京学院大学で開催され、120名近くが参加した。同ネットワークは復興・防災の過程に、ジェンダー・多様性の視点を入れることを目的に2011年5月から活動をはじめたが、今回、各チームの活動について中間報告をおこなうとともに、今後の政策課題について討議を行った。



開会の挨拶(左)と世話人

▼リストアップ運動

女性の側から復興・防災会議に人材を提供し登用を進める目的ではじめた「女性の人材リストアップ運動」の経過を発表。今回は全国(暫定)版として40人のリストが紹介された。共同代表による開会の挨拶でも、これを機に各地でも運動が広がることを期待すると発言があった。世話人からは設立からこれまでの運動の経過が紹介されたのち、各チームの報告に移った。

CONTENTS

- p.3 ▼神戸市 阪神淡路大震災から17年たって
- p.3 ▼宮城県南三陸町 「復興の成功には、コミュニティの維持が欠かせない」フィリピン人被災者・三浦マリさん
- p.4 ▼岩手県盛岡市 「私たちの復興会議～つながる、ひろがる、変える!～」開催
- p.4 ▼宮城県南三陸町 自分と向き合って～フォトワークショップに参加して

●研修チーム

ジェンダー・多様性配慮を実践している女性団体よりも一般の支援団体への働きかけをおこなうことを目的として、大学、ボランティア派遣・支援団体に向けての研修をおこない、その事例調査について報告。現地で研修のニーズが高く、今後は、各地で研修を行なえる体制をどう整えるか、自治体にどう伝えていくかが課題だ。そのため現在、絵と解説からなる研修ツールとして事例集を作成中で、その一例が示された。



